

【めむろ未来ミーティング日程 4】

令和 2 年 11 月 14 日 (火)

13:30～14:55

北明コミュニティセンター

■参加者 5人

■芽室町 副町長、総務課長、農林課長、建設都市
整備課長補佐

■記 録 矢野

■対応・検討が必要な事項

①災害時のガイドラインの件（総務課）

②スクールバス停留場の件（学校教育課）

- 1 開会
- 2 副町長挨拶
- 3 町からの説明事項
『公共施設の配置構想』
- 4 意見交換

【意見】

道路の要望。

道路の白線が見えない所がこの付近にすごく沢山あり、坂などはどこまでが中央線か分からず困っている。

【建設都市整備課長補佐】

町内を4地区に分けた中で地区ごとにおおむね西地区であったり北地区というような形で、順次白線の方を整備はしている。

意見のあった見づらい白線に関してはその箇所をその都度教えていただければ、今すぐ来年度の予算でできるか検討する。危険な状況であれば、今後整備する際に優先的に着手していきたいと思っている。後ほど、路線を教えてください。

【意見】

温水プールの建設で、今のテニスコートの南側の駐車場辺りに新たにできるとのことだが、駐車場自体はまた違う所に移るということか？

【副町長】

イメージは体育館があって、勤労青少年ホームがあって、その北側にプールがあるが、そのプールを勤労青少年ホームの横に付けようと思っている。

体育館と青少年ホームが渡り廊下でつながっているが、構想としてはさらにプールと青少年ホームも渡り廊下でつなげようと考えている。青少年ホームの中も一部改装してトレーニング室の場所を作り、軽スポーツもできるようにした上でプールと互に行き来できるような形にしようと思っている。

具体的には、青少年ホームの前はロータリーのようにになっているが、あの西側、ちょうどプールに真っすぐ入って行く所にプールを建てるイメージで駐車場のスペースには比較的掛からないと思っている。

また、南側のテニスコートには柏の木の根がひどい状態になっており、テニスコートとしては使える状況ではないので、南側を細工して駐車場を拡大する形になる可能性がある。

【意見】

建設している最中は、プールは使えるのか？

【副町長】

使用は可能。行き来に関しては、工事をやっているんで、迂回をしてもらうことになるかもしれないが、学校の授業で使う場所なので支障のないようにしたい。

【意見】

この北明地帯というのは結構土地が低く、すぐそばが川ということもあり、災害でもあればこの場所などは水没してしまう。防災の備品等を置くのであれば、北明の中でもなるべく高くなっている所が良いのではないかな。

【総務課】

災害への物品や備品は分散はしているが、地震の時の想定と水害の時の想定、芽室町の場合はその2つがある。

ここが水没した時には他の所から運んでくるような考えを持っている。

【副町長】

付近の川も十勝川との合流で水が逆流するというような課題は以前からあった。ご存知の通り、近くには大きな団地があって多くの人が住んでおり、仰る通り、ここが浸かってしまうと、という心配は非常に理解できる。今のままでは良いと思ってはいない。やはり北海道には引き続き要請はしていかなければならないと思っている。

地震の時に限っては、現状ではご自宅が一番安全である人が多いため、ご自宅に3日分の食料を備蓄しておくというのが第一でそれでも駄目な場合はこの施設というようなことになる。

【意見】

食料は何とかなるとしても、問題は電気だと思う。やはり電気が無ければ生活は成り立たない。

昔の話をすれば、40年程前に大きな災害があった際にここが拠点となったが、それ以前に、北も南も東も橋がすべて決壊してしまい、移動ができなくなったため大変だったという経験がある。よって、インフラ整備としてはやはり電気であるとか、こうした移動手段の確保が生き延びるためには必要だと感じる。

去年のブラックアウトの時も、結局、「電気が無ければどうしようもない」ということが分かったので、ここでも電気や発電機があるのが安心の一つであり、その対応というのを考えていただきたいと思う。自分たちでやるといっても中々厳しい部分がある。

【副町長】

電気自体が公共で用意しているものであれば、町も何とでも言えるが、あくまで電力会社という民間であるので、ましてやこの地域でいけば、発電して

も直接来られないこともあり、難しいところはあることを理解願いたい。

【意見】

ソーラー等に関しても、酪農家が自分で使えないというのが露呈した。自分たちで賄わなければならないことではあるが、やはり町単位で、これからの取り組みとしてどういう姿があるべきかというのが存在すれば、それに向けて動き出せるというのはあると思う。

例えば、自分の家の発電機を持ってきても結局使えなかったり、大きな発電機があっても繋げないというようなことがあり、まずはそうした所から、地域の人々に対して町で災害時の使い方のガイドラインなり、「こういう時はどうするか」という行動の指標を用意して再確認できるものがあるとありがたい①。

【副町長】

非常に大事な視点だと思う。まずは自分が出ること、隣近所が出ること、最後に役所というか公共が入って来る。その順番で何を備えておくべきかということに関しては、やはり共通認識をとっておかないと、それぞれの地域に温度差があっても困る。仰る通り、見本というのは必要なので防災担当にも伝えておく。

生きて行く上で必要な電気であったり水や火であったり、そうしたものも含めて整理していきたい。

もし地域で集まるような機会があれば、町の防災担当が地域に赴いて、「こういった備えが必要です」ということや、「こういった場合、このような行動が必要」といったことに関する出前講座があるので、もし機会があればご活用いただきたい。

【意見】

道路のことについて。傷みが結構激しい場所が多いと感じている。

私たちは農家なので、ダンプで走らなければならない時に、積んでいる農産物の関係で真ん中を通らないと危険な状況になることもある。

舗装の切れ目があり振動のすごい道路が多く、個人的な話になるが、長芋などを積んで走る際になるべく振動の少ない道路になればありがたいと感じる。どうにかならないものか。

【建設都市整備課長補佐】

郊外地・市街地含めて、近年同じようなご要望をいただく状況となっている。

昔は舗装にするために、薄い路盤、砂利が舗装の下に入っているような状況で整備して舗装の距離を伸ばすというようなことを高度成長期からやっていたが、やはり現在では農業機械も大型化していることもあり、舗装の下に砂利の上がり下がりにより路肩が落ちてしまうというような状況も町内全域で生じている。

一昨年に、芽室町内の道路マスタープランの改定を図り、その中では町内における優先すべき道路という位置づけを4パターン程に分けて、地域の幹線となる道路や生活道路の優先順位を付けて整備を進めている。

同じような状況が町内には多数あり町内の道路全てを補修するというのは厳しいが、危険な箇所はご連絡をいただければ、一部舗装を貼るなどの対応を行いたい。

【意見】

北明のことではないが、西士狩、美馬牛の橋、あそこなんかは本当に、大型がすれ違えない危険な状態なので何とかしてほしい。何年か前に欄干を改修していたが、欄干を改修するくらいであればもう少し広くした方が良いのではないかと感じた。

【建設都市整備課長補佐】

橋については、欄干の部分などは現在長寿命化という形でやり直しは進めている。単純に橋を拡幅するということになる、今度は橋全体の構造が持たないので、結局大規模な改修になってしまう。

先程の話と同じく、町内には266橋あるため、その中で傷みの状況を見ながら優先順位を決めて現在行っている。

架け替えというよりは長寿命化を図っていこうということで橋の方の整備は現在進めている。

【意見】

この付近は凍結がひどく、春になっても解けないような状況が多い。そうした場所の安全だけは確保していただきたい。

【建設都市整備課長補佐】

ミーティング後に地図で確認する。

【意見】

スクールバスのことに関して。うちは孫がまだ小学校に上がらないが、小学生になったらスクールバスを利用することになると思う。しかし、家は光勇牧場の一番端の方であって、そこまでバスは来ない。私の子どもの時もそうであったが、家から1キロ程離れた場所にバス停があり、そこまで歩いてた。

以前、娘が夕方道路を歩いていて車を横付けされ不審者に声をかけられたということもあったので、防犯面では非常に危ない。

今までも、何とか家まで来てくれということ度を度々町の方にも希望した所、家の所が丁度道路のふちでUターンする所が無いため、バスが行くことができないと言われたのだが、現在は家の所にロータリーを作ったので、是非バスに家まで来ていただけるようお願いできないか②。

また、私がいずれ免許を返納した際も、なるべく家の前まで送迎に来ていただけるよう頼めないだろうか。個人的なことで申し訳ないが、よろしく願いしたい。

【総務課長】

午前中も他の地区で、今のスクールバスの話と、免許返納に関する話が出た。

本日は教育委員会の職員と一緒に来ていないためすぐには回答できないので後日回答する。ご自身でロータリーも作られているということも含めて、話させていただく。

【副町長】

免許返納の話は、やはり高齢者時代になってきており、事故等の危険性も考えた上で絶対に必要な状況である。ただ、現実として、路線バスを毎日走らせるというのは、お金の面にも、物理的にも非常に難しい。

農村部の方にとって、家の前で乗って家の前で降りるという形が一番良いとすれば、2月に試験をやる予定のタクシーチケット助成があるので、それを利用していただいて家の前に呼ぶという形も合っていると思う。

【意見】

スクールバスは、一般の者が利用することはできないのか？

【副町長】

利用していただける。

ただ、これも朝と夕方しか出ないということで、その間時間をつぶすのに困るという声もあがっており、やはり行きたい時と帰りたい時にある程度自由に利用できるというのが皆さんの望みという面もあるのだが、例えば、病院に行くのに朝のバスに乗って行って、診察が終わったらタクシーを呼んで帰って来る方もおり、そこはやはり使い方だと思う。

どうしても、高齢の方の中にはそもそもタクシーを呼ぶという習慣のない人もいるので、「呼んでいいんだよ」ということを周知する必要があると考えている。

【意見】

このセンターの敷地について、どの辺りまでが含まれるのか？やまざと幼稚園の車などが停まっているところは？ラインが分かればありがたい。

【総務課長】

やまざと幼稚園の車が停まっている所は、恐らくこのセンターの敷地とみなさない方が良い。

喫煙について、この場合は建物内だけだが、幼稚園や学校なんかは敷地内も全て駄目なので、誤解

のないように機会を見てこのコミセンの敷地の範囲が分かりやすいような線引きを考えたい。

【副町長】

除雪は誰がしているのか。

【意見】

除雪は、基本的には毎年管理人が変わるが、大雪が降った時にはその管理人がするか、もしくは幼稚園の担当の人がそちら側の駐車場と一緒にやってくれている場合もあるので、除雪に関してはそこまで悩んではない。

冬に何度か使うことがあるが、その使う直前くらいに管理人が雪をどかす程度であり、降ったらすぐに除雪という方法をとっているわけではない。

【総務課】

かつてはやまざと幼稚園の子どもたちが年に何回かその施設を使うというような話を聞いたが。

【意見】

現在はそんなに機会がない。子どもたちが中に入るような機会はまず無く、あるとすれば養護学級やお母さん方の集まりの時にこちらを使いたいという場合だが、今はまだ使っていない。

【総務課】

理解した。

【意見】

要望。やはりインターネットの光が来て欲しいという思いがある。

【副町長】

民間事業者が郊外地までという所まで至っていないと聞いている。町として出来るかという、維持費用がかかることが大きくこれもまた厳しい。

現状としては、それよりも5Gが早く来ないかなという時期だと思う。5Gが来れば、光と同じくらい速いという話なので、そもそもそういった設備が

要らなくなる。

【意見】

新しく完成する予定の哺育育成施設について、ここで出る堆肥はどこへ行くのか？

【農林課長】

基本的には牧場内の牧草地に撒く予定。ただ、JAの若手との意見交換の中でも、堆肥センターまで堆肥を買いに行くよりは光勇である程度販売できるようなものがあればそれも選択肢だという話も出ている。

ただ、始まってみなければ、堆肥舎でどれだけの質のものが出来るかもわからないため、色々な選択肢を考えていきたい。

【意見】

今JAでやっている、お願いして畑に勝手に撒いてもらうシステムがあるが、それを頼むとやはり堆肥センターからここまでかなり距離があるので、もし可能なら近い所から堆肥を積んですぐこちらに撒ければ台数も3台でやっていたのを2台で済ませたり、現状堆肥を撒きたいのに撒けないという状況の人も実際にいたり、頼むのにもお金がかかったり自分でやるにも時間もかかるということで、そうした選択肢が広がれば非常にこちら嬉しい。

【農林課長】

理解した。施設はあくまでも町の施設だが、運営についてはJAにお願いしようと思っているので、今の話も含めてJAの方と、どういうやり方が一番良いのか検討したい。

【意見】

牧場の既存の施設が2か所あると思うが、それは併用して稼働していくということか？

【農林課長】

そうなる。今まで通り、嵐山と光勇の2か所。

【意見】

本州から高校生の修学旅行生が来たときに、牧場に行くとすごく感動してくれるし、牛を見るだけでも非常に喜んでくれる。新しく出来る施設も見学できることを想定しているのか？

【農林課長】

見学のための施設整備というのは考えていないが、ただ衛生管理をしっかりするので、ある程度のルールを守っていただければ見学のようなことも可能だと思うがタイミングや人数などの課題もあることを認識している。

【意見】

修学旅行生の件。芽室町に1クラス入るが、来る時は5人という時もある。もしその時に新しく出来る施設でも体験が出来れば、やはり感動してくれると思うので、修学旅行生の受け入れ等も可能であれば、やっていただけるような方向であれば嬉しい。

【農林課長】

もともと農家民泊の事務局は農林課ということもあるので、是非実現に向けて検討したい。

【意見】

私は以前に若いお嫁さんが農家のことを勉強する農業セミナーというものに入っていたことがあって、1期・2期・3期とあったが、本当に農業の基礎から学べて有り難かった。今はそのセミナーは無くなってしまったが、その後も同窓会のようなこともやったりして良い付き合いをしている。

こうした女性をターゲットにした農家の勉強の機会が必要だと思うので、何か助成などがあれば事業でやっていただければと思う。

【農林課長】

恐らくは同じセミナー出身の方だと思うが、以前全く同じ話を聞いた。その人曰く、今、仮に同じことをやろうとしても、今の世代のお嫁さん方はまた別の価値観をお持ちなので、同じように集まらない

可能性も高いとのことである。

しかし、やはり当時学んだ知識が有用だったということも事実なので、何とか参加しやすいような形で同じような趣旨のことをやりたいという意見をいただいた。



14:55 終了